

平成 24 年度
(2012年度)

町長施政方針

葉 山 町

はじめに、平成 24 年葉山町議会第 2 回定例会に当たりまして、施政方針を述べる機会をいただきましたこと、議長並びに議員各位へ深く感謝の意を表します。議員の皆様、町民の皆様とともにまちづくりを進めるべく、今年度の町政の施政方針を申し述べ、広くご理解とご協力を賜りたく思います。

－ 世界の中の日本 －

世界、近隣諸国には、先の見えない経済情勢と、北朝鮮やソマリア沖アデン湾の動向など、日本の経済、周辺事態にいまだ緊張感を強いられる情勢が続いています。また一方で、欧州政府の債務危機への懸念から、歴史的な円高は米ドルにつづき、対ユーロにも及んでおり、さらなる実体経済の縮小、市民生活への影響が心配されます。当町においても、リーマンショック以降、平成 21 年度、22 年度で計 4 億 8,000 万円以上の町税収入が減少していることを考えると、こういった情勢にも配慮して財政運営を進めていかなければならないと考えています。

また近隣諸国においては、本年 4 月 13 日に北朝鮮による「人工衛

星」と称するミサイル発射が行われ、失敗に終わったものの、当町でも万が一に備え、防災担当や消防を中心に警戒態勢をとり、2日間にわたる緊張を強いられました。町の安全と安心には幅広く、多面的な協力が必要だという認識から、その一環として、先日は陸上自衛隊武山駐屯地の葉山地域における初動部隊となる第117教育大隊長を訪問しました。今後は、外交を含む町の施策の一つとして、関係機関との付き合いは幅広く、日常から協調関係を保持したいと考えております。

－ 自然、社会状況 －

一方、自然災害や社会情勢も予断を許さない状況です。4月3日には町内でも瞬間最大風速34.4m/sを記録した爆弾低気圧により、家屋の破損など複数の被害がでました。また、5月2日、3日には記録的な大雨により、軽微ながらも土砂崩れが数箇所が発生するなど、異常ともいえる昨今の気象状況に対しては、地震、津波にとどまらない多岐にわたる防災体制の強化を求められています。そのため、消防団を含む消防や防災体制については、財源の制限はあるものの、充実した体制になるよう努めていかなければならないと考え

ており、今後も優先的に取り組み、町民の安全と安心の確保を図ってまいります。

社会情勢は、少子高齢化に合わせて人口減少の流れが迫っています。本年4月の葉山町の高齢化率は27.4%、県内では昨年1月の時点で第8位となっていますが、依然、65歳以上の占める割合は増えています。人口については、昨年までの微増傾向が横ばいとなり、5月までその状況が続いています。したがって、これまで微増と表現されてきた葉山町の人口は、横ばい状態となっていると認識しています。

－ 指針と補正予算についての考え方 －

本町を取り巻くこのような状況に対して、とるべき指針は3つです。一つは、先の見通せない時代において、経常事業継続のための新たな借り入れを安易に増やさないこと。その枠組みとして、プライマリーバランスの維持を図ることで、負担の将来への先送りを可能な限り小さくするという、財政規律の健全化に向けた取り組みを続けます。

次に、行政改革による事業・組織・人件費の見直しです。スクラ

ップアンドビルドやワークフローの見直し、人件費の適正化や職員研修の充実による組織の足腰の強化などで、町役場の第2創業期ともいえる行政改革を進めます。なお、今回の補正予算に議案として上程しました人件費削減は4年間で総額2億4,000万円以上のコスト削減に取り組み、職員一同がともに痛みを分かち合う、人件費にかかる行政改革の一つです。今後も引き続き総力を挙げてさまざまな行政改革、改善を進めます。

そして三つめは、各種産業の活性化による税収、広告費、寄付金など、新たな財源の確保策に取り組むことです。町の財産や伝統、町民性を守りながら、町の持つ魅力をアピールし、税収の上がるまちづくりを展開します。町に関係する大小の企業とも連携し、ステークホルダーとして協力関係を構築します。

さて、これらの指針をもとに、今回の政策的予算を計上しましたが、厳しい財政状況の下、1億1,000万円程度の規模にとどまりました。ただ、予算額の大小にかかわらず、できることは可能な限り早く、できなかったことは来年度に向けて、課題を明確にして体制を整えていきます。

－ 補正予算に見えない行政の取り組み －

『お金がない時代だからこそ、つながり合い、知恵と工夫とアイデアを』

私がいく度となく申し上げている言葉であります。その具体は予算に表れないため、行政内部の取り組みについて、一部をお知らせいたします。

ごみの資源化減量化については、現場目線でのアイデアや知恵を主体的に取り入れ、クリーンセンターの職員を中心としたクリーンセンターごみ減量推進会議を設けました。現在までに施策を実施するための調査、研究を行い、そのうえで関係各課と協力して、具体的な手段と計画が策定されました。今後はその具体策をさらにきめ細かく議論し、議会や町民の皆さまからもご協力やご意見をいただきながら、実行に移してまいります。同様に、この5月には職員による接遇向上委員会を設置したり、また、ソーシャルネットワークを活用するために、職員有志の SNS 会議を設けたり、各所において顧客目線での役場の改革を議論しており、いずれもサービス向上に資する改善につなげてまいります。また、部長会に関しては、部課を超えた横断的な議論の場とし、様々な観点から改善を検討する機

会として、政策形成の一助にしております。各担当には、引き継ぎ書の作成を促し、情報や知の蓄積など、きめ細やかで継続性のある業務を求め、足腰の強い組織を目指しています。今後は、副町長人事を公募で行うとともに、行政職員の採用方法の検討をすすめ、有用な人材登用を行い、更なる組織力の強化を推進いたします。外部においては、4市1町の首長懇談会を通じて、直接電話で話せるホットラインを確保するなど、内外にガバナンスによる関係構築を図っております。

－ 補正予算の概要 －

それでは、平成24年度の政策的予算としての補正予算に関し、主な事業につきまして、ご説明いたします。内容は今後ご審議を賜ります、第三次葉山町総合計画後期基本計画の体系に沿ってご説明申し上げます。

一点目として、「青い海と緑の丘のあるうつくしいまち」、緑豊かな住環境の整備を図るため、緑の保全、公園緑地、道路橋梁の整備等を行うとともに、環境に配慮したまちづくりを図るうえで、町民の皆様の関心の高い地球温暖化対策、省エネルギーの推進に、各家

庭における省エネ対策の普及を目的とした住宅用太陽光発電システム設置補助を 20 件追加拡充いたします。

二点目としては、「文化をはぐくむうるおい、ふれあいのまち」、こころにゆとりのある生活を育むため、生涯学習、学校教育、青少年健全育成等の推進を図るとともに、地域の土台となる活力ある産業の振興に力を注いでまいります。具体には、芸術・地域文化の振興について、地域住民の文化意識の高揚を図るため、福祉文化会館において、文化公演事業として子どもたちのための音楽会、葉山町新人音楽祭を開催いたします。子どもたちのための音楽会では、事業復活を記念して本年に限り、未就学児は無料、その他は可能な限り安価な料金設定でクラシックコンサートを開催する予定です。ぜひ多くの子どもたちに夢のある音楽の世界に触れていただきたいと思っております。また、美術品展示事業といたしまして、町所有の美術品のより安全かつ適正な管理のため、事業者へ委託し、住民へ公開する機会の増大について検討してまいります。観光支援事業としてのふるさとひろば補助金につきまして、歴史ある住民参加の事業であり、また一方で多くの人を訪れる地域活性化の創出ともいえます。葉山ふるさと広場の常に新しい魅力づくりと、より多くの方々が楽

しめる機会となるよう期待を込めて実行委員会へ助成するものでございます。

三点目としては、「安全で安心して暮らせるまち」、福祉の充実、未病を視野に入れた健康増進施策の推進に、小児医療費助成事業に取り組めます。子どもたちの健全な育成を支援するため、小児医療費の自己負担分の助成に関し、これまで小学2年生修了までの対象を、小学4年生修了までとするものです。当初は所得制限の撤廃を検討しておりましたが、多大な経常的経費となることやその他所得制限事業との関連等、課題解決を図る必要があるため、来年度以降の当初予算編成に向けて、引き続き検討することとし、本年度は2学年拡大までとしました。なお、ご存知の育児ガイドブック「葉みんぐ」については、内容の更新を行い、クオリティを高めたうえで、作成費は広告収入のみを目指しています。その他、介護保険ガイドブックなども一部無料で作成が決まっており、財政負担の軽減に向けた職員の地道な取り組みを大いに評価したいと思います。また、国民健康保険特別会計繰出金につきましては、保険料の引き下げを図るため一般会計から国保特別会計に3,000万円の繰り出しを行い、昨年続き、同額の保険料引き下げ策を図るものです。介護保険特

別会計については、包括的支援事業・任意事業費として、社会福祉協議会と連携のもと、在宅で生活されている方への介護用品支給事業の対象を要介護4以上から、要介護3以上に拡大します。

四点目に、安全・安心の根幹を成す災害に強いまちづくりを推進していく上で、救急体制の確立として、多くの尊い人命救助につながる自動体外式除細動器（AED）を町内会館を中心に15ヶ所、新たに町の管理として設置いたします。小学校耐震整備事業として、一色小学校新館の耐震補強工事実施設計及び改修工事の実施設計を行い、防災機能の充実や、安全性の確保を図るとともに、避難場所としての機能の充実をも図るものでございます。さらには、災害・減災対策といたしまして、3・11の大災害を踏まえ、特に海岸付近の住民や観光客、あるいは河川流域住民に対する啓発として、津波ハザードマップを更新するとともに、平時からの防災意識の高揚と、いざというときの情報源とするための防災対策総合ガイドブックを作成し、全戸配布を行います。また、3・11の災害を教訓とし、災害時における地域コミュニティによる対応力の強化を図るため、自主防災組織の防災資機材購入費の増額を行い、自助と共助の連携を図ります。最後になりますが、情報伝達手段の根幹となる防災行政

無線設備の更新を、最新のデジタルMCA同報無線設備に2カ年の継続事業として実施し、難聴地域の解消を図るとともに、より早く正確な情報の提供、注意の喚起を促します。

－ 終わりに －

日本は少子高齢化、人口減少という、世界的にも前例のない時代に入ります。葉山町も例外ではありません。しかし、いつの時代においても、将来に向けて、新たな価値を創造すること、そのための改革を止めないことで、町民の皆様へ寄り添う行政の実現に引き続き努めてまいります。

前例にとらわれない柔軟な発想により、終わることのない改革への挑戦を続けてまいることを約束いたします。

以上、私の施政方針を述べさせていただきましたが、平成24年度の行政運営には引き続き全力を挙げて取り組んでまいります。平成24年第2回定例会における補正予算にご賛同いただけますこと、よろしくお願い申し上げます。